

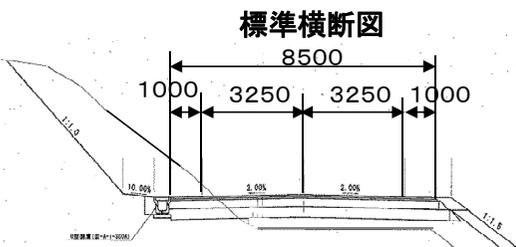
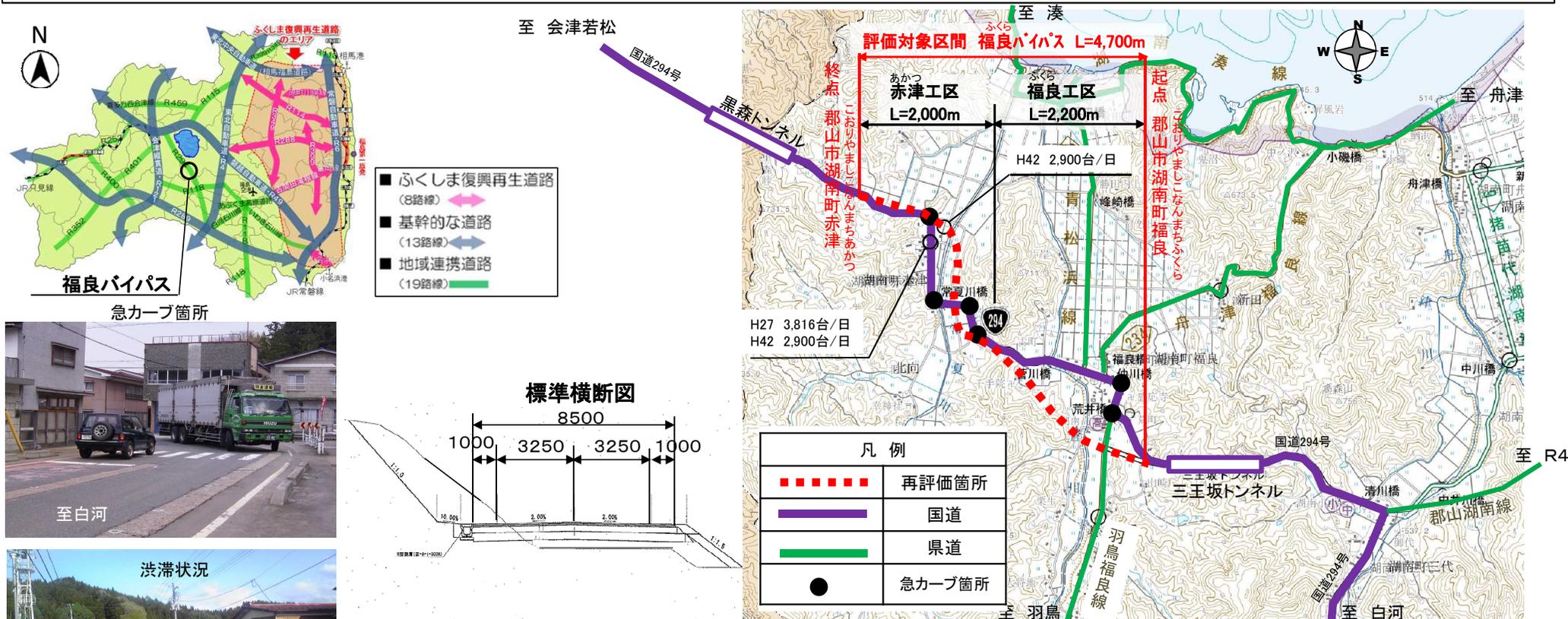
整理番号	113	事業名 〔地区名〕	交付金事業(道路)(再生・復興) 〔郡山市 国道294号 福良バイパス〕	全体事業費 (百万円)	3,423	採択年度	H21	完成目標年度*	R2 (H32)	担当部(局)課名	土木部 道路整備課
------	-----	--------------	---	----------------	-------	------	-----	---------	-------------	----------	-----------

※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	事業採択から10年経過で継続中	前回評価時の対応方針	委員会からの提言：一、付帯意見等：一、県の対応方針：一
--------	-----------------	------------	-----------------------------

## 1 事業の概要

- 国道294号(福良バイパス)は、「福島県総合計画(ふくしま新生プラン)」及び「福島県復興計画(第3次)」の「復興まちづくり・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト」に位置付けられ、中通り及び南部軸と横断道軸の連絡機能を担う重要路線である。
- 通行に支障となっている幅員狭小、屈曲箇所等を解消することにより、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、集落部のバイパス化により沿道環境(騒音・振動)の改善を図る。



### 国道294号(福良バイパス)の整備効果

- 延長 L=4,700m
- 幅員 W=6.5(8.5)m
- 主要構造物(仮)福良1号橋L=29.5m
- バイパス整備による交通分散化 → 行楽シーズンの渋滞解消
- 通過交通がバイパス部に移行され、集落内交通量が減少 → 歩行者の安全確保、騒音振動問題の解消

## 2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行済額	年度別執行額	
前回	今回 (前回差)		～30年度	31年度見込
—	3,423	1,641	1,641	1,280

(1) 現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- 工事は、平成30年度末までに51%完了。
- 平成31年度に主要構造物である(仮)福良1号橋の整備が完了する予定。
- 平成31年度に福良工区(L=2.2km)の供用を開始する予定。
- 赤津工区(L=2,500m)は平成31年度に用地買収が完了する予定。
- 平成31年度に(仮)福良2号橋の上下部を施工する予定。

(2) 期待される効果 [評価(A)・B・C]

- バイパス整備による交通分散化で、行楽シーズンの渋滞が解消される。
- 通過交通がバイパス部に移行する事により、歩行者の安全確保及び騒音振動問題が解消される。

(3) 事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価(A)・B・C]

- 行楽シーズンには、特に県道青松浜線との交差点部で渋滞が発生することから、早期の事業完成が求められている。
- 現道には幅員狭小、急カーブ区間があり大型車のすれ違いが困難となっているため、円滑な交通の確保が必要とされている。
- 毎年、郡山地域道路整備促進期成同盟会から、福良バイパスの早期整備について要望あり。

(4) 評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

評価指標	採択時 (H21)	完成時 (R2)	備考
急カーブ箇所	6箇所	0箇所	
通過時間	10.2分	5.6分	

【その他参考となる数値】

・現況交通量(H27) 3,816台/日 → 将来交通量(H42 (R12)) 2,900台/日

(5) 費用対効果の状況・要因の変化 [評価(A)・B・C]

$$B/C = \frac{43.2+2.3-1.2}{36.0+4.4} = 1.10 \quad (\text{前回値 } -)$$

- ・[B]道路事業における総便益(走行時間短縮便益+走行経費減少便益+交通事故減少便益の合計)
- ・[C]道路事業に要する総費用(道路整備に要する事業費+道路維持管理に要する費用の合計)

【参考値】

$$B/C = \frac{43.2+2.3-1.2+8.9^{*1}}{36.0+4.4} \times 1.5^{*2} = 1.97$$

\*1: 追加便益: 8.9億円(迂回の解消効果、冬期交通の効果、CO2排出削減効果、救命救急へのアクセス向上効果、防災効果)

\*2: 地域修正係数: 1.500(中通り)

(6) コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

- 盛土について、他工区との流用調整により土砂を有効利用。
- 防草板等、維持管理費の削減によるライフサイクルコストの削減。
- 起点側の現道取り付けや主要構造物である橋梁に着手しており、ルート変更の可能性は無い。

## 3 評価

(1) 県の対応方針案	(2) 理由
事業継続	事業採択時と同様の効果発現が見込まれ、交通混雑の解消や地域の活性化に寄与するため、現計画のとおり事業を進める必要がある。